

第3章

調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

- ① 各学校の実態を把握する
- ② 分析を行う
- ③ 仮説を設定する
- ④ 検証を行う

調査結果から、各学校の実態を把握し、分析を行うことで課題等を踏まえた仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって検証を行うといったP D C Aサイクルの確立につなげてください。

1 個人結果票について

令和5年度埼玉県学力・学習状況調査



個人結果票の活用について

県教育委員会では、県内公立小・中学校の小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒一人一人の学力の経年変化（学力の伸び）を把握するために、平成27年度から県学力・学習状況調査を行っています。

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。

先生方におかれましては、児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見し、その解消を図ることができるよう御活用ください。

1 個人結果票の返却及び活用の流れ

返却前

- 個人結果票に、各学校で保管している個人番号票をもとに、名前を記入する。
- ※ この作業を間違えると、児童生徒に誤った結果が返却されることになります。間違いがないか十分に確認してください。

返却時

児童生徒には

- 本調査の特徴を伝えます。
 - ・「学力の伸び」が分かる調査であること
 - ・現在の「学力のレベル」が分かる調査であること
- 一人一人の1年間の伸びに注目し、認め、ほめてください。その後、苦手領域を中心に家庭学習をするよう言葉かけをします。
- （C B T実施校）解答ログに着目して、県の平均と比較して時間をかけている領域や問題を見いだすことも可能になりましたので、適切に声かけをします。
- 今後の学習計画に対するアドバイスをします。

保護者には

- 可能な限り時間をかけて、お子さんのよさや課題を伝えます。
- 伸びたところをほめるとともに、苦手領域を中心に家庭学習を行うよう伝えます。
- 家庭学習には、県のホームページから本調査の「復習シート」をダウンロードして活用できることを伝えます。

埼玉県学力・学習状況調査 復習シート

検索

※ この結果を今後の学習に生かせるよう、できる限り早く返却いただけるよう御協力をお願いします。

埼玉県教育委員会

2 個人結果票の見方について

【個人結果票1ページ】

1ページには、**2・3ページの、教科に関する調査結果の見方**が掲載されています。

また、**それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例**が掲載されています。各教科とも調査問題の出題範囲は前学年の内容です。参考にしてください。

令和5年度は以下の2つの方法で調査を行いました。

- ・紙媒体による調査 (PBT: Paper Based Testing) ・タブレット端末等を使用する調査 (CBT: Computer Based Testing)

【個人結果票 (PBT) 2・3ページ】

国語

教科に関する調査結果

あなたの学力は、「レベル11」まで伸びました。

学年	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
国語	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7
数学	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7
英語	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7

数学

教科に関する調査結果

あなたの学力は、「レベル10」まで伸びました。

学年	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
国語	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7
数学	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7
英語	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7

英語

教科に関する調査結果

あなたの学力は、「レベル12」まで伸びました。

学年	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
国語	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7
数学	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7
英語	レベル12	レベル11	レベル10	レベル9	レベル8	レベル7

中学校3年生の例

学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、前年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信をもち、よきをさらに伸ばそう。今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいこう。得意分野は、さらに伸ばすために、苦手分野については、積極的に取り組む。指導を受けて理解を深めよう。わからないところは、積極的に先生や友達に質問しよう。自分の得意分野について積極的に発表しよう。自分の得意分野について積極的に発表しよう。自分の得意分野について積極的に発表しよう。

学習に関するアドバイス

あなたの数学の学力は、前年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信をもち、よきをさらに伸ばそう。今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいこう。得意分野は、さらに伸ばすために、苦手分野については、積極的に取り組む。指導を受けて理解を深めよう。わからないところは、積極的に先生や友達に質問しよう。自分の得意分野について積極的に発表しよう。自分の得意分野について積極的に発表しよう。

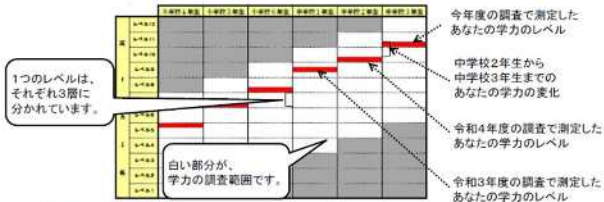
学習に関するアドバイス

あなたの英語の学力は、前年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信をもち、よきをさらに伸ばそう。今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいこう。得意分野は、さらに伸ばすために、苦手分野については、積極的に取り組む。指導を受けて理解を深めよう。わからないところは、積極的に先生や友達に質問しよう。自分の得意分野について積極的に発表しよう。自分の得意分野について積極的に発表しよう。



個人結果表の見方

この調査では、各学年における学力のレベルがわかります。レベルが上がるほど難しい問題を解く力があります。過去の結果と比べることで、「学力の伸び」を確認できます。



それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例

レベル	国語	数学	英語
レベル12	「文中の同じ活用の動詞を選び、活用形を書く」 「漢文の書き下し文に沿って返り点を打つ」	「三角形の合同を利用して、2辺の長さが等しいことと角の等しいこと」 「比例のグラフをもとに、平行線の式を求める」	「英語で書かれた平仮文を読み、書き手の伝えようとすること」 「英語で書かれた平仮文を読み、書き手の伝えようとすること」 「英語で書かれた平仮文を読み、書き手の伝えようとすること」
レベル11	「文章の要点をまとめた内容の正誤を選ぶ」 「漢文の訓読文をよみ下しにする」	「文章題について、連立方程式を利用して解く」 「2点の座標をもとに一次関数の式を求める」	「物語や説明文などの長文を読み、内容に合うタイトルを選ぶ」 「疑問詞や動詞などを活用した発展的な英文を読み立てる」
レベル10	「筆者の心構えの説明として適切なものを選ぶ」 「段落における中心的な言葉の説明として適切なものを選ぶ」	「文字を用いて、整数の性質について説明する」 「一次関数の2つのグラフの交点を求める」	「自分のことや考えについて、2年生で学習した表現を用いて3文程度の英文で書く」 「比較の構文を用いた応用的な英文を読み立てる」
レベル9	「スピーチ原稿を作成するための工夫として適切なものを選ぶ」 「文中から同じ使い方の動詞を選ぶ」	「全てのカードから2枚ひくときの確率を求める」 「整数の性質の文章題について、方程式を利用して解く」	「物語のあらすじや説明文を読み、内容に合う英語を選ぶ」 「文章のあらすじや説明文を読み、内容に合う英語を選ぶ」
レベル8	「問題の解決策を選び、それを理由で理由を二語で説明する」 「使う語句にふさわしい漢語、尊敬語を選ぶ」	「内角の和からその多角形を求める」 「算術式の無数の解の性質について、方程式を利用して解く」	「まとまりのある英文を読み、人物の動作など簡単な情報を読み取る」 「理由として適切な文を選ぶ」
レベル7	「文中の例示文は何を示すための例であるか、適切な内容を選ぶ」 「2乗の対称性として適切なものを選ぶ」	「代入法や加減法で連立方程式を解く」 「定数の逆の比例として適切なものを選ぶ」	「動詞や動詞など、空欄に当てはまる適切な語を選ぶ」 「位置を表す英語を聞き、場所を表す語を選ぶ」
レベル6	「説明的な文章に書かれている具体例を書き添く」 「会話文の空欄に当てはまる言葉の中から選ぶ」	「簡単な文章式の計算をする」 「平行線の性質を利用して角の大きさを求める」	「簡単な英語の会話などを聞き、場面を表す語を選ぶ」 「簡単な英文を読み、場所や時間などを聞き取る」

※ 個人結果票は、【小学校4～6年生用】【中学校1年生用】は国語と算数・数学の2教科、【中学校2・3年生用】は国語・数学・英語が掲載されています。

【個人結果票 (CBT) 2・3 ページ】

中学校 3 年生の例

国語

あなたの学力は、「レベル」まで伸びました。

教科の領域等別正答率など

教科	領域	正答率 (%)	平均
ア	1	88.2	84.6
	2	88.7	86.8
	3	89.2	87.0
	4	89.7	87.2
イ	1	60.0	56.8
	2	60.0	56.8
	3	60.0	56.8
	4	60.0	56.8
ウ	1	62.5	54.3
	2	62.5	54.3
	3	62.5	54.3
	4	62.5	54.3
エ	1	71.9	65.5
	2	71.9	65.5
	3	71.9	65.5
	4	71.9	65.5
合計		71.9	65.5

2 ページ

数学

あなたの学力は、「レベル」の中で伸びがありました。

教科の領域等別正答率など

教科	領域	正答率 (%)	平均
ア	1	72.3	66.7
	2	72.3	66.7
	3	72.3	66.7
	4	72.3	66.7
イ	1	71.4	62.9
	2	71.4	62.9
	3	71.4	62.9
	4	71.4	62.9
ウ	1	62.5	54.3
	2	62.5	54.3
	3	62.5	54.3
	4	62.5	54.3
エ	1	78.9	69.9
	2	78.9	69.9
	3	78.9	69.9
	4	78.9	69.9
合計		71.9	65.5

2 ページ

英語

あなたの学力は、「レベル」の中で伸びがありました。

教科の領域等別正答率など

教科	領域	正答率 (%)	平均
ア	1	60.0	56.8
	2	60.0	56.8
	3	60.0	56.8
	4	60.0	56.8
イ	1	60.0	56.8
	2	60.0	56.8
	3	60.0	56.8
	4	60.0	56.8
ウ	1	62.5	54.3
	2	62.5	54.3
	3	62.5	54.3
	4	62.5	54.3
エ	1	71.9	65.5
	2	71.9	65.5
	3	71.9	65.5
	4	71.9	65.5
合計		71.9	65.5

3 ページ

個人結果表の見方

教科の領域等別正答率など

問題の領域ごとの正答率など

あなたの正答数	問題数	正答率 (%)	平均 (%)	偏差値	標準偏差	
ア	11	13	84.6	60.9	069908	069878
イ	4	6	66.7	56.8	119958	079288
ウ	2	5	60.0	53.0	059148	069418
エ	5	8	62.5	54.3	159948	149148
合計	23	32	71.9	57.2	389968	379208

未解答の問題 「あり」=解答を入力していない問題がある
表示していない問題「あり」=最後の問題まで表示していない

領域別の解答時間分布

あなたが解答にかけた時間 解答にかけた時間 (県平均)

※解答に「かけた時間」は、その問題を解き始めてから最初に解答が保存されるまでの時間です。
※「見直し等の時間」は、調査全体の時間から「かけた時間」を引いたものです。

正答率や「かけた時間」を県平均と比べると得意・不得意を捉えるヒントになります。

※解答に「かけた時間」の県平均は、正答・誤答に関わらず全ての児童生徒を対象に集計しています。
※ルビ版を使用した場合、「かけた時間」は返却できません。

(1) 学力のレベルなどの見方について

学力のレベルを赤いバーの位置で表しています。学力のレベル表記は全部で 12 段階ありますが、測定は各学年 7 レベルの間で行っています。例えば、中学 2 年生の測定範囲は、レベル 5 からレベル 11 になります。

1 つのレベルは、それぞれ 3 層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで学力の伸びがわかります。

例えば、同じレベル 5 の中でも、学力のレベルが高くなるとバーの位置が変わります。
※前学年での赤いバーの位置と、今回の赤いバーの位置を比べると、学力の変化がわかります。

学年	学力のレベル
小学校 4 年生	レベル 1～レベル 7
小学校 5 年生	レベル 2～レベル 8
小学校 6 年生	レベル 3～レベル 9

学年	学力のレベル
中学校 1 年生	レベル 4～レベル 10
中学校 2 年生	レベル 5～レベル 11
中学校 3 年生	レベル 6～レベル 12

(2) **今までの学力の変化** について

「児童生徒の学力の変化」について、次のような形でコメントを記載しています。

例：

あなたの学力は、「レベル11」まで伸びました。

コメントは、次の①～⑧のパターンがあります。

	児童生徒の学力の変化の状況	表示されるコメント
①	学力が伸びて、レベルが上がった場合	あなたの学力は、「レベル〇」まで伸びました。
②	同じレベル内で、伸びがあった場合	あなたの学力は、「レベル〇」の中で伸びがありました。
③	学力の位置が前年度と同じだった場合 学力の位置が前年度より下がった場合 (スモールステップでレベルが1つ下がった場合を含む)	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はR 5の児童生徒の学力レベルの数字)
④	2つ以上レベルが下がった場合 正答数が0問であった場合 (学力のレベルの は表示されません)	学校の先生等と、学習などについて相談をしてみましょう。
⑤	全ての調査問題に正答した場合	あなたの学力は、レベル〇以上になりました。 (〇は当該学年での最高レベルの数字)
⑥	本年度の調査は実施したが、昨年度の調査を未実施の場合	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はR 5の児童生徒の学力レベルの数字)
⑦	本年度調査の一部教科を未実施の場合 (昨年度実施・未実施の場合とも)	未実施教科：本年度の調査を受けていないため、今回の学力のレベルは表示できません。 (実施教科については①～⑥の状況に応じたコメントが表示されます。)
⑧	本年度の調査を全教科未実施の場合 (個人結果票の返却はありません)	—

※個人結果票を返却する際のお願い

【①②⑤の場合】(「学力の伸び」が見られた場合)

- ・本調査のねらいを実現できるよう、学力の伸びた教科について、**児童生徒一人一人の1年間のがんばりを認め、ほめる**言葉かけをお願いします。
- ・その際、「教科の領域等別正答率」や「県全体の正答率分布」なども参考にしながら、**よさを具体的にほめる**よう心がけてください。

【③④の場合】(学力の位置が前年度と同じ、または前年度より下がった場合)

- ・伸びている他の教科や、「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、**よいところをほめる**ことを中心に言葉かけをしてください。
- ・学力が前年度と同じか下がっている児童生徒については、「授業への取組」「学習習慣」「生活習慣」などにつまずきや悩みがある可能性があります。**個々の学習方法や生活上の悩みを聞き取る、教育相談などを行う**ことで、児童生徒の状況を把握し、助言し、その後の取組等を見届けるなど十分な支援をしてください。

【⑥の場合】(昨年度未実施の場合)

- ・「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、**よいところをほめる**ことを中心に言葉かけをしてください。

【⑦の場合】(今年度一部未実施の場合) 実施教科について、①～⑥に準じてください。

【⑧の場合】(今年度全教科未実施の場合)

- ・個人結果票はありませんが、日常の授業等ががんばっているところ等、ほめることを中心に言葉かけをしてください。

(3) **学習に関するアドバイス** について

アドバイスは3段構成になっています。

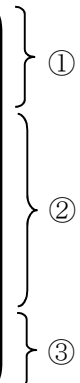
例：「同じレベル内で、伸びがあった場合」のコメント

あなたの数学の学力は、昨年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

図形は、大変よくできました。図形の学習は、平行線の性質など今まで学習した性質を使い、いろいろな視点から考えることが大切です。3年生では相似な図形の学習があるので、図の中に含まれるいくつかの性質を関連させて考えを深めましょう。

また、関数の学習は、式から交点を求めたり、式をグラフに表したりする問題ができるようになることが大切です。3年生では放物線の学習があるので、分かっていることを、式・表・グラフと関連させ、ていねいに取り組みましょう。

今回のあなたの学力レベルを参考に、県ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。



- ・①では、児童生徒の学力の状況について説明し、「学力の伸び」を認めるコメント、授業や学習習慣などへのアドバイスを記載しています。
- ・②では、領域等別に、今後どのような学習がさらに効果的であるかを記載しています。
- ・③では、復習シートの活用を促しています。

「学力レベルが前年度と同じだった場合」「学力レベルが前年度より下がった場合」については、「必要に応じて、学校の先生やご家族の方と相談してみるのもよいでしょう。」などのコメントを記載しています。児童生徒の現状や要望に応じて**面談などを行い**、つまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、子供たちが自分をさらに伸ばし、自分のよさを生かしていけるよう働きかけましょう。

学力を伸ばすことはできたトン？
QRコードで復習シートを確認して自分のレベル
にあった問題を解いてみるトン！

※学習に関するアドバイスの近くに、コバトンからのアドバイスを
とともに復習シートへアクセスできる2次元バーコードを追加
しました。

※こちらは、各領域の正答率から児童生徒の状況を見取り、復習シ
ートで補充するイメージを児童生徒や保護者にお伝えください。



(4) **教科の領域等別正答率** 及び **県全体の正答率分布** について

- ・「教科の領域等別正答率」には、領域ごとの正答数、設問数、正答率を県全体の平均も併せて記載しています。レーダーチャートの実線（**—**）は児童生徒の正答率、網掛け（**■**）になっている部分は、県全体の平均正答率となっています。学力の変化の状況以外に、児童生徒のよさを認める際の参考としてください。
- ・「県全体の正答率分布」は、人数を横軸とした県全体の分布を棒グラフで示しています。当該の児童生徒が含まれる集団を表す棒グラフの色を**■**として、県全体におけるおおよその位置が分かるようになっています。ただし、**本調査の目的は、児童生徒一人一人の「学力の伸び」や変化を把握してよさを伸ばしていくこと**にありますので、県全体の中での位置に重きを置いた働きかけや指導は控え、あくまで**参考として御活用ください。**

(5) CBT化に伴う個人結果票の変更点について

帳票 06 (個人結果票) は CBT と PBT で異なります。

令和 5 年度の変更点
⇒個人結果票 (帳票06) の変更

PBT用

教科の領域別正答率

あなた の正答率	問題数	あなたの 正答率 (%)	埼玉県 平均正答率 (%)	あなた のかけた時間	県平均 のかけた時間
ア	2	13	15.4	09分18秒	07分06秒
イ	2	5	33.3	07分41秒	09分12秒
ウ	2	2	40.0	08分38秒	03分12秒
エ	2	5	25.0	14分55秒	10分16秒
全体	8	32	25.0	38分30秒	29分46秒

県全体の正答率分布

正答率 (%)

あなたの正答率は、県全体の正答率分布の **赤い線** に含まれています。

CBT用

教科の領域別正答率

あなた の正答率	問題数	あなたの 正答率 (%)	埼玉県 平均正答率 (%)	あなた のかけた時間	県平均 のかけた時間
ア	3	13	58.2	09分39秒	07分06秒
イ	4	8	46.0	07分41秒	09分12秒
ウ	2	3	50.0	08分38秒	03分12秒
エ	4	7	57.1	14分55秒	10分16秒
全体	13	32	58.4	38分30秒	29分46秒

県全体の正答率分布

正答率 (%)

県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	読むこと	領域等	読むこと
問題の概要	文章の表現方法について適切なものを選択する	問題の概要	文章の内容についてまとめた表にあてはまる文を選択する
見直し回数	0	正誤	正
見直し回数	0	正誤	誤
かけた時間	04分39秒	かけた時間	02分18秒
かけた時間	04分39秒	かけた時間	05分25秒

教科の領域別正答率など

あなた の正答率	問題数	あなたの 正答率 (%)	埼玉県 平均正答率 (%)	あなた のかけた時間	県平均 のかけた時間
ア	6	13	46.2	09分18秒	07分06秒
イ	4	8	50.0	07分41秒	09分12秒
ウ	1	4	33.3	08分38秒	03分12秒
エ	4	7	57.1	14分55秒	10分16秒
全体	15	32	48.4	38分30秒	29分46秒

領域別の解答時間分布 (テスト時間45分)

自分 県平均

未解答の問題: あり / 表示していない問題: なし

あなたの正答率の順位: 08分27秒 / 埼玉県平均の順位: 15分11秒

- CBTについては、新たな視点として解答ログが領域別にグラフとして表記されています。県の平均の解答にかけた時間と比較することでどの領域に時間をかけてしまったかなど、児童生徒が解答時間のかけ方の偏りなどを見つけることにも繋がります。
- ※ 解答ログ…その問題を解くためにどれだけの時間をかけたかなど、児童生徒が問題にかけた時間や見直しの時間等を可視化したもの
- また、県平均の解答時間に比べて時間をかけて正解した問題や逆に時間をかけて間違えてしまった問題も1問ずつ抽出して、問題概要を記載しています。

県平均と比べて時間をかけた問題

※解答に「かけた時間」は、その問題を解き始めてから最初に解答が保存されるまでの時間です。
※「見直し等の時間」は、調査全体の時間から「かけた時間」を引いたものです。
※「-」の場合、該当する問題はありません。

領域等	読むこと	領域等	読むこと
問題の概要	文章の表現方法について適切なものを選択する	問題の概要	文章の内容についてまとめた表にあてはまる文を選択する
見直し回数	0	正誤	正
見直し回数	0	正誤	誤
かけた時間	03分13秒	かけた時間	00分53秒
かけた時間	03分13秒	かけた時間	00分53秒

領域等	読むこと	領域等	読むこと
問題の概要	文章の表現方法について適切なものを選択する	問題の概要	文章の内容についてまとめた表にあてはまる文を選択する
見直し回数	0	正誤	誤
見直し回数	0	正誤	誤
かけた時間	04分51秒	かけた時間	02分13秒
かけた時間	04分51秒	かけた時間	02分13秒

- また、課題が見られる領域や問題について、県学調は問題を公表していないため、どのような問題かわからないという声もいただいておりますので、県で作成している復習シート (HP) へのリンクを2次元コードとして帳票に記載しました。帳票 06 は児童生徒を通して御家庭へ返却され、保護者にも見ていただけることからタブレット端末を活用し、2次元コードで類似問題を表示させて、児童生徒の学習の定着に御活用ください。

【個人結果票 4 ページ】

(6) 「質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～」について

- ・規律ある態度の達成目標について、児童生徒の回答状況を示しています。
- ・面談等において よいところを認め、ほめる 材料にしてください。

質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～

「規律ある態度」を身に付けることで・・・

- ・集中して授業に取り組めるようになり、授業がよくわかるようになります。
- ・ルールやマナーが身に付き、学校の活動がもっと楽しくなります。
- ・自分も周りの人も、気持ちよく生活できるようになります。

達成目標とその達成状況

☆は選択肢の「よくできる」、「だいたいできる」、「あまりできない」、「できない」の中から、「よくできる」、「だいたいできる」を選択したことをあらわしています。

		達成目標	R5
けじめのある生活 ができる	1 時刻を守る	登下校時刻を守ることができていますか	☆
		授業や活動の始まる時刻を守ることができていますか	☆
	2 身の回りの整理 整頓をする	脱いだはき物のかかとをそろえることができていますか	
		机やロッカーの中、身の回りの整理整頓をすることができていますか	☆
礼儀正しく人と 接することができます	3 進んであいさつ や返事をする	だれに対しても進んで挨拶をすることができていますか	
		名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事をすることができていますか	
	4 ていねいな言葉 づかいを身に付ける	時と場に応じた適切な言葉遣いができていますか	☆
		相手の気持ちやその場の状況を考え、やさしい言葉遣いができていますか	☆
約束やきまりを 守ることができる	5 学習のきまりを 守る	学習の準備を整え、授業に臨むことができていますか	☆
		先生の話や友達を発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができていますか	
	6 生活のきまりを 守る	人の集まる場所では静かにし、その場にふさわしい態度をとることができていますか	☆
		進んで掃除や美化活動に取り組み、学校をきれいにすることができていますか	

ご家族へのメッセージ

ご家庭で一人一人の力を確実に伸ばすためには…

ご家庭では調査の結果を見て、お子さんの「よいところ」、「努力が必要なところ」を把握し、一人一人のお子さんに合った「目標設定」をし、「家庭学習の習慣化」を図ることが効果的です。
また、お子さんと、「時刻を守る」、「あいさつをする」など、約束やきまりを守ることの大切さについて、あらためて話し合い、確認することが重要です。
お子さんのやる気を高めるには、調査の結果を見て、よかったところや伸びたところをほめて、お子さんたちに自信を持たせると効果的です。

(7) 自由記述欄の活用について (例)

- ・今後の学習計画や取組などについて児童生徒が記入する。
- ・保護者等に、がんばりを認めたり励ましたりするコメントを記入してもらう。
- ・学級担任が、児童生徒のがんばりなどを認めるコメントを記載しておく。

自由記述欄

※ 埼玉県学力・学習状況調査(保護者用リーフレット、問題概要、復習シート)などについては、県ホームページをご覧ください。
県ホームページ <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査結果の分析・活用について①（学校担当者用）

令和5年度埼玉県学力・学習状況調査

学校担当者用



調査結果の分析・活用について

本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析・活用の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

分析・活用の手順

分析

①学年全体の学力の伸びを把握し、分析する。→【帳票28】

- ・学年別、教科別の学力の伸びの様子がグラフで示されています。
- ・県の学力の伸びの様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

②学級の学力の伸びを把握し、分析する。→【帳票42】

- ・帳票を前年度の学級ごとに並べ替え、「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」が計算されています。
- ・学校全体で良い取組を共有することを目的とし活用します。学力の伸びが見られた学級や教科を確認します。

活用

○学力を伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有する。

- ・学力を伸ばした学級や教科の担当者からの聞き取りや、学力を伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見付け改善を図る。→【帳票11】

- ・「学力」「学力の伸び」「学習方略」「非認知能力」「生活習慣」等の関係から、自校の成果や課題を見付けます。

埼玉県教育委員会

【帳票28】を活用した分析

分析①

学年全体の伸びを把握し、分析する。

○【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。

→ 「平均学力のレベルの状況」や「学力階層別の状況」を分析する。

(1) 平均学力のレベルの状況

【分析①】学力の伸び幅の違い

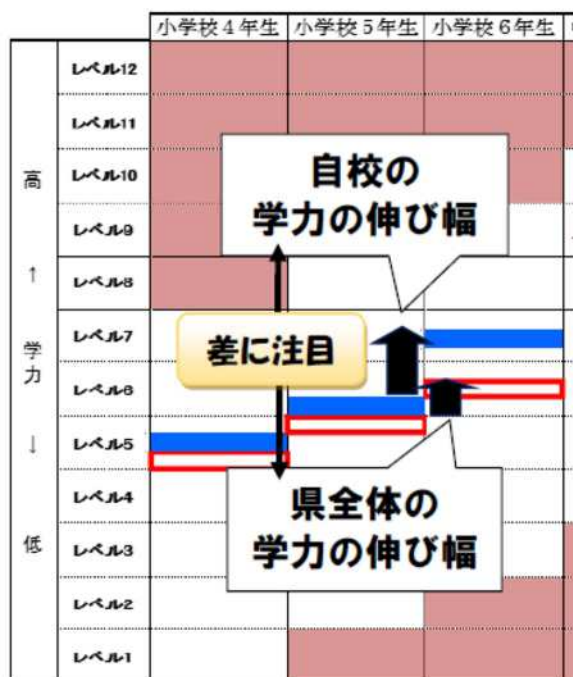
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見付ける。

【分析②】学力のレベルの違い

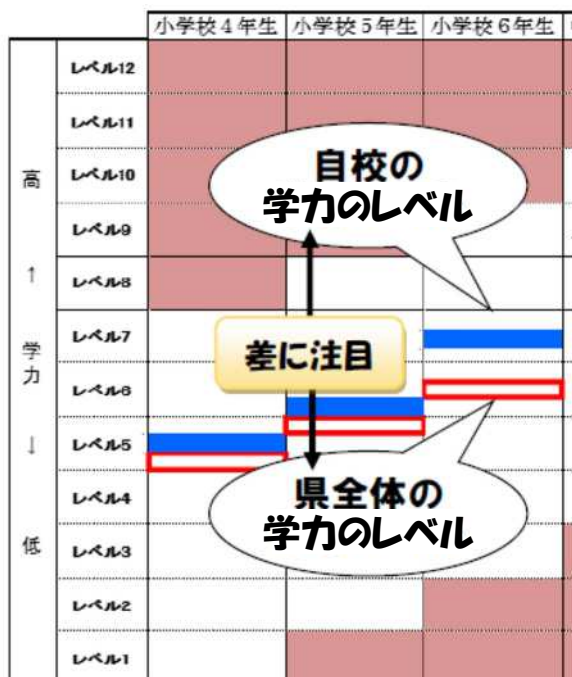
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見付ける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見付ける。

【分析①】学力の伸び幅の違い



【分析②】学力のレベルの違い



※【帳票27】では、異なる年度の同学年と、学力のレベルを比較することができます。

※【帳票33】では、学力を伸ばした児童生徒の割合や、学年全体の学力の伸びが分かります。

「伸び幅が大きい」、「学力のレベルが高い」といった学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

(2) 学力階層別の伸びの状況

【分析①】 学力層別の学力の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見付ける。

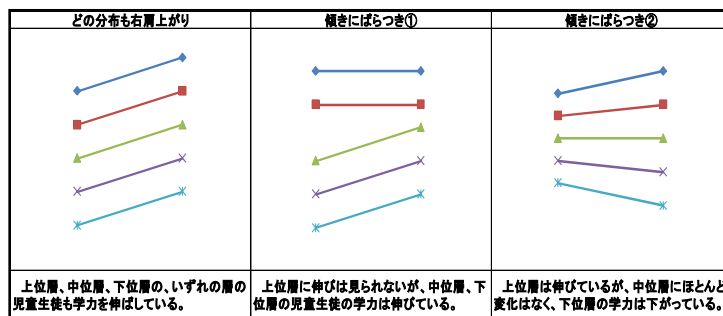
【分析②】 埼玉県とのグラフの傾きとの比較

→ 県平均よりグラフの傾きが大きい学年や教科を見付ける。

【分析③】 各学力層の学力のレベル

→ 県と比較して、学力のレベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見付ける。

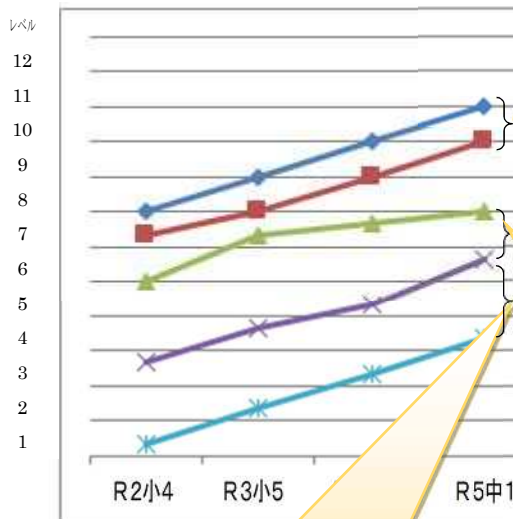
<グラフの見方>



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力のレベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

分析例

貴実施主体

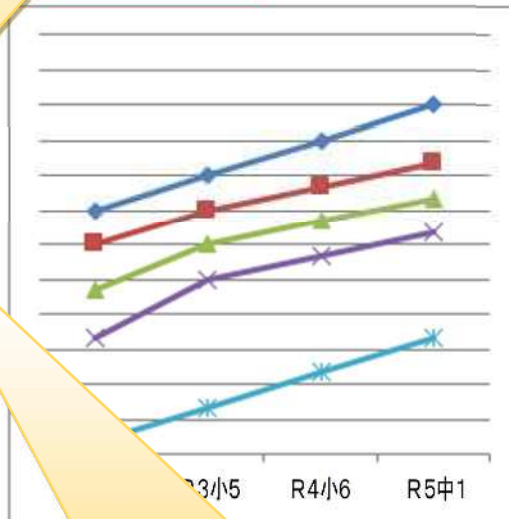


下位層のグラフの傾きが
県のグラフより傾きが大きい
⇒下位層への充実した支援が
あったのではないかな。

学年の中で上位層の学力のレベルが高い

⇒上位層を伸ばす工夫があったのではないかな

埼玉県



中位層の学力が伸び悩んでいる
⇒前学年でのつまずきがあるのではないかな。

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

【帳票42】を活用した分析

分析②

学級の学力の伸びを把握し、分析する。

○【帳票42】学力分析データ（前年度在籍クラスを基準にした学力の伸び・学習方略・非認知）クラス別

→ 前年度の「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」を分析

42

学校用

分析例

令和5年度埼玉県学力・学習状況調査(旧小学校5年生)

学力分析データ(前年度在籍学年・クラスを基準にした伸び・学習方略・非認知)

〇〇市立本〇〇小学校

※各数値は、R4、R5調査をともに実施した児童生徒を集計対象としています。
 ※R4児童生徒数は、昨年度質問紙を含むいずれかの教科を実施した児童生徒の数を表しています。
 ※学力を伸ばした児童生徒は、「学力のレベル(3分割)」を数値化(例:1-Cは"1"、12-Aは"36")したとき、昨年度より数値が1以上増加している児童生徒となります。
 ※学力の伸び率(学力のレベルの差の平均)については、集計対象となる児童生徒の「学力のレベル(3分割)」を数値化(例:1-Cは"1"、12-Aは"36")して計算しています。
 ※「主体的・対話的で深い学びの実施」、「学習方略」、「非認知能力」の数値の範囲は1.0~5.0となっており、数値が高いほどよい値となっています。
 ※令和4年度の前年度非認知能力の数値と変化量は、一部参考値として記載しています。

R4 学年	R4 組	R4児童生徒数	学力を伸ばした児童生徒の割合(%)		学力の伸び率 (R5学力のレベルとR4学力のレベルの差の平均)		R5学力のレベル 平均		R4学力のレベル 平均		主体的・対話的で深い学びの実施		
			国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数			
			埼玉県平均		77.7	57.7	2.6	1.1	20.1	17.2	17.5	16.1	-0.3
5	1	38	94.3	81.2	3.6	2.5	3.1	23.4	19.5	19.9	19.9	-0.3	
5	2	37	89.2	62.2	3.3	1.1	22.1	18.7	18.8	17.6	17.6	-0.4	
5	3	37	61.2	73.0	2.1	2.5	21.0	19.8	19.9	17.3	17.3	-0.6	

前年度の学級で並べ替えてあります！

【例】1組は、ベテランの担任が担当クラスの学力等を順調に学力伸ばしている。
 ⇒学級経営に定評のある担任から、学級経営のノウハウを共有

【例】2組は国語、3組は算数の指導で大きく成果を上げている。
 ⇒担任の教科専門性が高いことが考えられるので、得意な教科のよい指導方法を共有

※【帳票42】は、今年度の児童生徒の調査結果を、前年度の学級に戻して集計した帳票です。本年度の調査結果を前年度の指導の成果として検証することができます。特に、中学1年生の調査結果については、出身小学校の6年生の学級に戻し、小学校にデータを返却しています。これにより、小学校6年生のときの学級での指導を検証することができます。また、学習方略や非認知能力等の伸びも検証することができます。

R4 学年	R4 組	R4児童生徒数	R4→R5(変化量)									
			主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力		
				継続的方略	プロセス的方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)	向社会的性		
			埼玉県平均									
5	1	38	-0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	-0.1	-	0.1	0.2	-
5	2	37	-0.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	-	0.2	-0.2	-
5	3	37	-0.6	0.0	0.0	0.1	-0.1	-0.3	-	0.0	-0.1	-

※令和4年度の前年度非認知能力のスコアは一部参考値となっております。

1 担当からの聞き取りや、授業参観により、よい取組を把握します。

【方法例① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・ 子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・ 授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・ 授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・ 授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・ 学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・ 家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

聞き取りの
ポイント

- ・ 上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・ 新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

＜参観の視点の例＞

- ・ 主体的な学びを実現するための工夫
（学習目標や見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・ 対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子供・子供同士の双方向の対話の実現等）
- ・ 深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・ 言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）

参観の
ポイント

- ・ 授業後の協議が深まるよう、参観するポイントを示すなどの工夫をしてください。

2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。



校内研修例

協議例1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年(学校)、教員独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目> (本校の実態及び協議・意見交換から設定)

例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。

② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る。

活用例① 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析
——「どのような児童生徒が学力を伸ばしているのか?」——

手順1 「①クロス集計（「学力の伸び」の階層と児童生徒質問紙の項目）」のシートを開く。

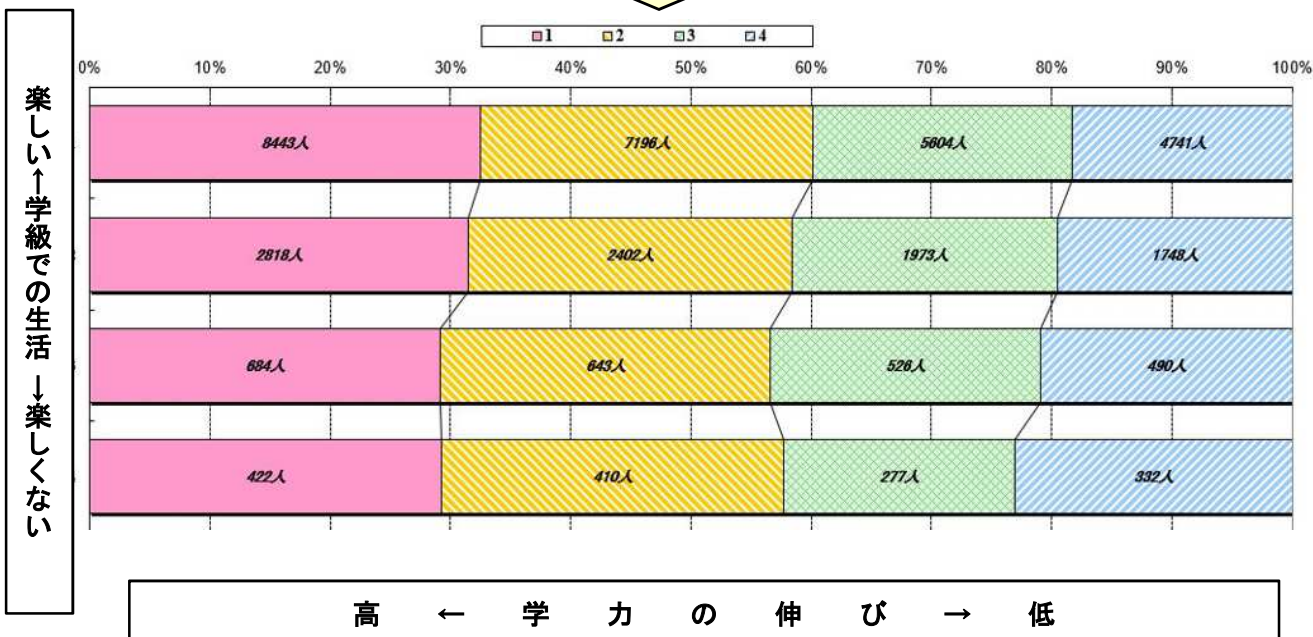
手順2 縦軸カテゴリーで質問紙調査の項目を選ぶ。

横軸カテゴリーは学力の伸び、教科を選ぶ。

縦軸カテゴリー⇒ 質問《（小5）学級での生活は楽しかったですか》

横軸カテゴリー⇒ 学力の伸びの階層_算数

フルダウンで選択するだけでクロス集計の帯グラフが出来ます！



上の帯グラフは、「(前年度の)学級での生活は楽しかったですか」と「算数の学力の伸び」のクロス集計です。

※上の例は、小学校第6学年（全県）のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータで入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小（中）学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名で入っています。

活用例②

「他項目との関連の強さ」を視点とした分析

——「学校として何に取り組むのが有効か？」——

埼玉県学力・学習状況調査分析支援プログラム＜小学校6年生 関連探索＞

探索項目⇒ 算数【領域等】《図形》成績階層

プルダウンで選択するだけで相関係数のリストが出ます！

手順1 「④関連探索」のシートを開く。

手順2 探索項目を選ぶ。

探索項目(相関係数が高い順に表示)		相関係数
算数【観点】《知識・技能》成績階層	強く関連	0.850
算数【領域等】《数と計算》成績階層	やや強く関連	0.704
算数【領域等】《データの活用》成績階層	やや弱く関連	0.583
国語【観点】《知識・技能》成績階層	やや弱く関連	0.571
算数【領域等】《変化と関係》成績階層	やや弱く関連	0.566
算数【観点】《思考・判断・表現》成績階層	やや弱く関連	0.565
国語【領域等】《言葉の特徴や使い方》成績階層	やや弱く関連	0.550
国語【観点】《思考・判断・表現》成績階層	やや弱く関連	0.545
国語【領域等】《読むこと》成績階層	やや弱く関連	0.512
国語【領域等】《話すこと・聞くこと、書くこと》成績階層		0.457
国語【領域等】《情報の扱い方、我が国の言語文化》成績階層		0.395
質問《しょう来どの学校まで進みたいと思いますか》		0.290
質問《(小)算数)授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと》		0.230
質問《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習しゅくで勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も入ります)》		0.215
質問《学校の授業時間以外に、ふたん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習しゅくで勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も入ります)》		0.211

- ・相関係数が0.8以上のときは **強く関連**
- ・相関係数が0.7以上のときは **やや強く関連**
- ・相関係数が0.5以上のときは **やや弱く関連** と表示が出ます。
- ・相関係数が0未満のときは 相関係数の値が**赤字**で表記されます。

上の例は、探索項目に「算数【領域等】《量と測定》成績階層」を選択したものです。多くの項目と相関関係が出ています。

※上の例は、小学校第6学年(全県)のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータが入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小(中)学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名が入っています。

3 調査結果の分析・活用について②（学級担任用）

令和5年度埼玉県学力・学習状況調査

学級担任用



調査結果の分析・活用について

本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各学級担任の先生方にも調査結果から、①学級の児童生徒の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといった確かな学力の育成に向けたPDCAサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、学級担任の先生方に向けた分析・活用の例を作成しました。学級担任の先生方が本調査から児童生徒の実態を多面的に把握し、個に応じた指導の充実につながるよう御活用ください。

分析・活用の手順

分析

○ 児童生徒一人一人の状態を学力の伸び等から把握する。

→【帳票40】

- ・ 学年、学級の児童生徒一人一人の学力のレベル、伸び、非認知能力、学習方略の値が一覧で示されています。
- ・ 児童生徒一人一人の学力の伸び等の値を県平均や学年平均、学級平均と比較したり、昨年度との変化量を見たりして、気になる（学力や学習方略、非認知能力の数値に課題があると考え）児童生徒を確認します。

活用

○ 気になる児童生徒に対して、どのような手立てや方策をとるか考える。

- ・ 気になる児童生徒の要因分析等をして、支援の仕方を学年等で検討し、効果的な手立てや方策などの取組を模索します。

参考

色付け等をすると、児童生徒一人一人の実態が分析しやすくなります。

- ・ 【帳票40】のデータをコピー＆ペーストすることで、色付けができるファイルを添付してあります。必要に応じて御活用ください。

【帳票40】を活用した分析

分析

児童生徒一人一人の状態を学力の伸び等から把握する。

- 【帳票40】「学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別」から児童生徒一人一人の状態を捉える。

縦に見ることで、伸びや変化量から気になる児童生徒を見付けることができる。

40 学校用

令和6年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校6年生)

学力分析データ(学力のレベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

〇〇市立▲▲小学校

学校	国語			算数・数学			R4→R5(変化量)							R5結果												
	R5レベル	伸び	R4レベル	R5レベル	伸び	R4レベル	国語・算数	算数	国語	算数	国語	算数	非認知能力	算数	国語	算数	国語	算数	非認知能力							
学校A	8-C	2	7-B	8-B	4	7-C	-0.2	0.8	0.4	0.7	0.3	0.3	-	0.3	0.7	-	3.8	4.2	3.8	4.0	4.1	4.3	-	3.7	3.8	-
学校B	8-C	4	6-A	8-B	6	6-B	-0.2	0.8	0.4	0.7	0.3	0.3	-	0.3	0.7	-	3.8	4.2	3.8	4.0	4.1	4.3	-	3.7	3.8	-
学校C	7-A	2	6-A	8-C	0	6-C	-0.3	0.0	-0.1	-0.1	0.0	-0.3	-	0.0	0.4	-	3.8	3.4	3.5	3.2	3.8	3.7	-	3.3	3.5	-
学校D	6-C	0	6-C	8-A	5	5-C	-1.3	0.0	0.3	-0.3	-0.3	0.8	-	0.8	0.0	-	3.5	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	-	4.4	4.8	-
学校E	8-C	-2	8-A	7-C	-5	8-A	-0.4	0.3	0.5	-0.5	0.8	0.5	-	-2.8	1.2	-	4.1	4.8	4.3	3.5	4.5	4.3	-	2.1	4.8	-
学校F	5-A	-3	6-A	7-A	5	6-C	-1.4	0.0	0.3	0.3	1.0	-1.3	-	1.5	-0.8	-	2.9	4.0	3.5	3.5	4.5	3.3	-	4.3	4.0	-

横に見ることで、気になる(学力や学習方略、非認知能力の数値に課題があると考える)児童生徒の学力のレベル・伸び・学習方略・非認知の状況が把握できる。

【分析】 学力レベル・伸び・非認知能力、学習方略の数値から気になる児童生徒を見つけたり、状態を把握したりする。

- 【例】
- ・ 学力のレベルが国語(算数または両教科とも)で、県平均より高い(低い)児童生徒がいる。
 - ・ 学力のレベルが国語(算数または両教科とも)で、大きく伸びた(伸び悩んだ)児童生徒がいる。
 - ・ 非認知能力や学習方略が、県平均より高い(低い)児童生徒がいる。
 - ・ 非認知能力や学習方略の変化量が、大きい児童生徒がいる。

【活用】 分析で把握した、気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援する。

- 【例】
- ・ 先生御自身の経験から、普段の授業の様子で把握していた実態と県学調の結果で見られた数値を比較して要因等について吟味する。
 - ・ 学力に課題がある数名の児童生徒をピックアップし、非認知能力や学習方略の数値を確認し、要因等について吟味する。
 - ・ 学力等を順調に伸ばしている教員や教科指導で大きく成果を上げている教員の効果的な取組を共有する。
 - ・ 過去に県が取り組んだ学力向上事業や県学調の報告書、県学調活用リーフレットに書かれている事例を参考にして課題に応じて取り組んでみる。

埼玉県教育委員会

【参考】以下の実施マニュアルにしたがって、帳票40を色付けすると状況が見やすくなります。

ビフォー（色付け前）

アフター（色付け後）

埼玉県学力学習状況調査 帳票40色分け+並び替え 実施マニュアル

1 Excel シート【帳票40 コピー】を開く。



2 分析したい帳票40（原本）を開く（帳票を作成したい学級のシートを選択 例：1組）。

① **赤い四角①**で囲んだ部分をクリックして**全選択** ⇒ **コピー**

3 1で開いたExcel内【帳票40 コピー】シートを開く。

赤い四角①で囲んだ部分をクリックして**全選択** ⇒ **貼り付け**

4 帳票07【コピー】シートに出席番号順にソートした帳票07※をコピーする。



5 印刷帳票に反映される。

② **印刷帳票①**

4 まずは、この帳票から！

学校担当者用

埼玉県学力・学習状況調査



まずは、この帳票から！

本シートでは、各学校における分析等が効率的且つ円滑に行えるように、活用をおすすめする帳票を4つ紹介しています。是非、参考にしてください。

学級担任の先生におすすめ！ → 帳票40

一人一人の様々な結果データの一覧です。学年、学級ごとにデータがまとめられています！

学年主任の先生におすすめ！ → 帳票28

学年全体の学力のレベルの変化や学力の伸びの状況等が教科ごとに、グラフの形でまとめられています。

グラフ化

教科担当の先生におすすめ！ → 帳票09

各教科の領域ごとの正答率、設問ごとの正答率・無回答率や難易度について知ることができます。

※上記帳票28においてグラフ化する前の数値です。

今後の学校の取組におすすめ！ → 帳票33

学力を伸ばした児童生徒の割合、学力レベルの伸びの平均が分かります。「よい取組」等を共有するきっかけづくりとなります。

埼玉県教育委員会

5 埼玉県学力・学習状況調査を活用した実践事例

「コバトンのびのびシート」を活用して、学力に課題のある児童生徒について学力や学習の状況を把握し、効果的な指導方法を話し合い、共有し、日頃の指導に生かす。

【A小学校の例】

コバトンのびのびシート

教科 (科目)	年度	正答率	レベル	伸び	伸び率(%)		読心
					算数	国語	
算数	R05	80.6	7-A	2 (3)	85.7	85.7	50.0
	R05	96.9	8-A	5 (2)	92.5	87.5	100.0

項目	内容		R05	変化
	算数	国語		
「主体的・対話的で深い学び」ができていたか	4.5	1.0		
柔軟な方略	2.0	-1.3		
プランニング方略	2.5	-1.5		
作業方略	2.8	-2.3		
認知的方略	3.3	-0.8		
努力調整方略	3.3	-1.8		
自己効力感	1.6	-2.6		
やりぬく力	3.0	-0.6		

学習方略と非認知能力の変化

学力レベルの変化

【年・組・氏名】5年2組11番 埼玉 OO

〇〇テスト(国語)				〇〇テスト(算数)			
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
70	80	75	70	85	75	95	85
80	95	75	80	90	70	100	85

伸ばしたいところ

国語	算数
<input type="checkbox"/> 言語の特徴や使い方を <input type="checkbox"/> 情報の使い分け、発音・読解の基礎文化 <input type="checkbox"/> 読み手・読者に、書くこと <input type="checkbox"/> 読心	<input type="checkbox"/> 数と計算 <input type="checkbox"/> 図形 <input type="checkbox"/> 変化と関係 <input type="checkbox"/> テーブルの活用
<input type="checkbox"/> 書かすこと・書くこと <input type="checkbox"/> 書くこと・書くこと	<input type="checkbox"/> 図形領域に苦手意識がある、特に、面積を求める際に図形を移動したり切って考えたりすることに苦労している。具体物や図をもちいて、丁寧な説明が必要な場面もあった。図形をとらえる場面について、困難があるため、必要に応じて図形の支援が必要である。

のびのびシートから先生の眩き

〇〇さん、話すこと・聞くこと、書くことの領域が弱いよね・・・どうしたらいいかしら？

研修会や普段の職員室で

〇〇さんの話すこと・聞くこと、書くことの領域を伸ばすにはどのような指導をしたらいいですか。

資料を提示しながら発表させる時は、資料のどこに着目してほしいのか説明を付け加えさせるといいよ。

スピーチメモを書くときに、簡単に説明したり、詳しく説明したりする部分を検討させるといいと思うよ。

場面や相手を意識して発表させるには、話す様子や聞き手を動画で撮影して、振り返るといいよ。

私も、授業でそうしてみよう

効果検証

- 例えば・・・
- 授業で行う小テストや単元テスト等の結果の分析
 - 次年度の県学調結果の分析
 - 全国学調結果の分析

授業で実践



のびのびシートへの記録と共有

大切なことは、教職員で、「コバトンのびのびシート」をもとに、よりよい指導方法について話し合いをして、それをみんなで共有することです。

